

社会的責任を果たす企業として、 持続可能な社会の実現に貢献します

朝日工業社グループは従来より、企業理念および企業行動憲章に基づいた事業活動こそが、企業としての社会的責任（CSR）を果たすことにつながるものと考えています。この考え方を当社グループの基本姿勢として、ESG（環境・社会・ガバナンス）の各側面への対応強化を図り、またそのプロセスの一つとして2030年までに「持続可能でよりよい世界」を目指すSDGsに、グループ全体として取り組んでいます。



「朝日工業社グループSDGs基本方針」と「SDGsに係る取り組みテーマ・具体的な施策」

SDGs経営を推進するために、「朝日工業社グループSDGs基本方針」を策定するとともに、年度毎に「SDGsに係る取り組みテーマ・具体的な施策」を設定しています。設定した取り組みテーマ等については、取締役会で実績を評価して適宜見直しを行い、開示しています。

朝日工業社グループSDGs基本方針		
当社グループは、「地球環境と資源を大切にしながら、空気・水・熱の科学に基づく高度な技術によって、最適空間を創造し、人類文化の発展に貢献する」ことを企業理念に掲げています。 当社グループのすべての役職員は、この理念に基づき、SDGs（持続可能な開発目標）の精神を十分に理解した上で、以下の6つの重点課題に積極的に取り組み、持続可能な社会の実現を目指します。 当社グループが取り組む重点課題と関連するSDGs目標		
地球 Planet	地球環境の保全・資源の保護による脱炭素社会の実現 事業活動全般を通じて、地球環境の保全と資源の保護に努め、脱炭素社会の実現に貢献します。	
豊かさ Prosperity	持続可能な社会の実現につながるソリューションの提供と品質・安全衛生の確保 これまで培ってきた省エネルギーをはじめとする環境技術の活用や研究開発の強化により、持続可能な社会の実現につながるソリューションの提供と品質・安全衛生の確保に努めます。	
人間 People	ワークライフバランスとダイバーシティの推進 事業活動に関係するすべての人々の人権と健康を尊重し、多様な人材が能力を十分に発揮し、また働きがいを持てる職場環境を確保・維持できるよう、ワークライフバランスとダイバーシティを推進します。 働き方改革の推進とデジタル技術の活用による生産性の向上 事業プロセス全般において働き方改革を推進するとともに、デジタル技術を積極的に導入・活用することにより、生産性の向上を目指します。	
パートナーシップ Partnership	ビジネスパートナー等との共存共栄とパートナーシップの強化 当社の事業に協力いただく関係先（ビジネスパートナー）との公正、透明かつ適正な取引により共存共栄を目指すとともに、産学官の連携も視野に入れて外部組織とのパートナーシップを強化し、持続可能な社会の実現に取り組みます。	
平和 Peace	コーポレートガバナンスの拡充とコンプライアンスの強化 さまざまなステークホルダーの期待に応えられるよう、コーポレートガバナンスの拡充に取り組み、またコンプライアンス重視の経営を徹底して国内外の法令や社会規範を確実に遵守します。	

「SDGsに係る取り組みテーマ・具体的な施策」の2022年度の実績評価と2023年度の取り組み

○…目標達成、△…進行中、×…目標未達

当社グループが取り組む重点課題	関連するSDGs目標	取り組みテーマ	具体的な施策	2022年度実績評価		2023年度の取り組み	ISO26000中核主題(参考)						
							組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な事業慣行	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
地球 Planet 地球環境の保全・資源の保護による脱炭素社会の実現	 	環境マネジメントシステムによる環境負荷の低減	事業所におけるエネルギー使用量(原油換算総量(kℓ))の低減	△	2021年度と同程度の低い水準に抑えられる見込みであるが、さらなる削減に取り組む必要がある。	左記の取り組みテーマ・具体的な施策をさらに推進し、実績向上を目指すとともに、「サプライチェーンにおける温室効果ガス排出量の把握と分析」については、具体的に温室効果ガス排出量の削減に取り組む。	●			●	●		
			フロン類の適正処理	○	100%再生または破壊処理を行った。					●	●		
			産業廃棄物の適正処理	○	100%適正処理を行った。					●	●		
		脱炭素社会の実現に向けたマネジメント強化	気候変動に関するリスクと機会の分析	○	2022年6月にTCFD提言に沿った情報開示を行った。		●			●	●		●
			サプライチェーンにおける温室効果ガス排出量の把握と分析	○	事業活動におけるScope1,2,3で排出量を算定し、上記とともに情報開示を行った。		●			●	●		
豊かさ Prosperity 持続可能な社会の実現につながるソリューションの提供と品質・安全衛生の確保	  	持続可能な社会の実現につながるソリューションの提供	客先に対するファシリティマネジメント提案の推進	×	前年度の実績を下回った。	左記の取り組みテーマ・具体的な施策をさらに推進し、実績向上を目指す。						●	
			省エネ提案におけるCO ₂ 排出削減量の見える化の運用	○	前年度の実績を上回った。					●		●	
			設計・施工の各段階におけるCO ₂ 排出量の削減	△	事業活動におけるScope1,2,3での排出量は算定したものの、設計・施工段階の排出量把握が遅れた。					●		●	
		研究開発の強化	コメ型ワクチンMucoRice 栽培環境に関する研究	○	安定的栽培環境を確立し、収量増かつ省エネ栽培環境を継続研究中。							●	●
			液冷空調システム、潜熱・顕熱分離空調を中心とした独自ZEB空調システムの改善	×	実システム構築が延伸した。					●			●
			臭気やVOC対策ニーズに応じた対策システムの開発	○	製薬会社などの実際の施工案件に適用した。					●		●	
			研究開発基盤の整備	△	研究開発基盤を整備中。					●			●
		品質・安全衛生の確保	トラブル・クレームの未然防止と情報共有	△	トラブル等の完全防止には至らなかったが、各種施策においてトラブル未然防止活動を継続中。		●					●	
			効果的な品質・安全衛生管理の推進	○	各種品質管理方法および施工管理方法を策定し、情報共有を実施。作業日報管理ソフトの導入を検討中。				●				
									●				
人間 People ワークライフバランスとダイバーシティの推進 働き方改革の推進とデジタル技術の活用による生産性の向上	   	ワークライフバランスの推進	法定時間外労働時間の削減	△	従業員全体として若干ながら削減した。	左記の取り組みテーマ・具体的な施策をさらに推進し、実績向上を目指すとともに、新たな施策として「女性総合職の採用」「障がい者の雇用確保」などのダイバーシティに取り組む。		●	●				
			有給休暇取得の奨励	○	有給休暇取得率が上昇した。			●	●				
			育児休業取得の促進	○	男性育児取得率が上昇した。			●	●				
		ダイバーシティの推進	女性管理職の登用	△	前年度と同一の実績であり、さらなる取り組みを検討中。			●	●				●
			定年再雇用者の活躍推進	△	処遇見直しを検討中。			●	●				
		働き方改革の推進	働き方改革「Asahi Sun社員プロジェクト」のさらなる推進	△	継続して推進中。			●	●				
			デジタル技術の活用による生産性の向上	○	WEBでの資材発注とウェアラブルカメラの試験導入を実施した。OJT体制構築のためのデジタルツールについてウェアラブルカメラも含め今後も検討中。				●				
				○	チャットツールの安定的な稼働と、FAQシステムやワークフローシステムを新たに導入した。				●				
パートナーシップ Partnership ビジネスパートナー等との共存共栄とパートナーシップの強化		サプライヤーとの連携強化	適切な関係維持と品質、安全確保に向けた協力関係の推進	○	各種研修会や安全パトロールを実施した。	左記の取り組みテーマ・具体的な施策をさらに推進し、実績向上を目指すとともに、新たな施策として「適切な関係維持と品質、安全確保に向けた協力関係の強化推進」に取り組む。			●		●		
			協力会社との公正な取引とインセンティブ強化	△	具体的な取り組みについて継続検討し、目途が立ち次第推進予定。				●		●		
		外部組織とのパートナーシップの強化	SDGsに係る国内外的イニシアチブ・コンソーシアムへの参画	△	積極的な参画を検討中。			●	●	●	●		●
			全社的な社会貢献の継続実施	○	コロナ禍前の実績水準に戻すことができた。								●
		外部組織との社会貢献活動の推進	その他、各事業店による地域社会貢献の継続実施	○	前年度同程度に継続実施した。				●				●
平和 Peace コーポレートガバナンスの拡充とコンプライアンスの強化		コーポレートガバナンスの拡充	コーポレートガバナンス体制の継続的強化とコーポレートガバナンス・コードへの適宜適切な対応	○	取締役会実効性評価で抽出された課題に対して、適宜対応した。	左記の取り組みテーマ・具体的な施策をさらに推進し、実績向上を目指すとともに、新たな施策として「広報・IRの推進」「上場企業に相応しい体制の整備」に取り組む。	●				●		
			内部統制システムの確実な運用と簡素化に向けた検討	○	内部統制の不備はなかった。		●				●		
			広報・IRのさらなる体制整備の推進	△	新たな組織を設置予定。		●				●		
			プライム市場上場に対応しい体制の整備	○	東証に提出した計画より1年早くプライム市場のすべての上場基準を達成した。		●	●			●		
			BCPを上半期中に全社で整備し、下半期より運用開始	×	2022年度中でのBCP策定はできなかった。		●				●		
			コンプライアンスの徹底・強化	○	コンプライアンスの徹底と定期的な教育を行った。		●	●			●		
		実効的なコンプライアンスの浸透	ハラスメント防止への取り組みの強化	○	相談窓口の適切な運用と教育を行った。		●	●	●		●		

SDGsコンパス※に基づく当社グループの取り組み

当社グループは、SDGsコンパスが求める5つのステップに基づき、SDGs経営を推進しています。

ステップ1SDGsを理解する

- 当社の役員(取締役、監査役および執行役員)を対象に、外部講師を招いての研修会を開催
- 当社グループの役職員を対象に、SDGsについてのe-ラーニングを実施

e-ラーニング前の理解度調査結果

まったく知らなかった18%

内容まで理解していた15%

言葉だけ聞いたことがある21%

なんとなく知っていた46%

98%

e-ラーニング後の理解度調査結果

「理解できた」「なんとなく理解できた」と回答した比率

ステップ2優先課題を決定する

- 国連サミットで採決された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」における持続可能な開発のキーワード「5つのP」を参考にして重点課題を決定した上で、「朝日工業社グループSDGs基本方針」を策定



出典：国際連合広報局

ステップ3目標を設定する

- 取締役会の諮問機関として、サステナビリティ委員会を設置し、同委員会でも毎期「SDGsに係る取り組みテーマ・具体的な施策」を設定して、その進捗状況の確認・評価を行い、取締役会へ報告
- 取締役会において、各テーマ等の進捗状況・評価結果について内容に応じて議論を実施
- SDGsの啓発を目的に、社内各所でのポスターの掲示、および役職員へのSDGsバッジの配布と着用奨励



SDGsバッジ



SDGs啓発ポスター

ステップ4経営へ統合する

ステップ5報告とコミュニケーションを行う

- 「SDGsに係る取り組みテーマ・具体的な施策」の実績の評価と新たなテーマ等の設定について、当社ホームページ上に開示
- https://www.asahikogyosha.co.jp/sustainability/asahi_csr_sdgs/
- 本レポートにおいて報告

※SDGsコンパスとは、企業がSDGsを経営戦略と整合させ、SDGsへの貢献を測定・管理していくための企業行動指針です。
GRI(グローバル・レポート・イニシアチブ)、UNGC(国連グローバル・コンパクト)、WBCSD(持続可能な発展のための世界経済人会議)の3団体が共同で作成しました。

37 ASAHI KOGYOSHA CO.,LTD. CORPORATE REPORT 2023

ASAHI KOGYOSHA CO.,LTD. CORPORATE REPORT 2023 38